

広葉樹皆伐跡地を効率的かつ確実にワラビポット苗で成園化する技術

試験研究機関名 森林研究研修センター

目的

ワラビはその圧倒的な被覆力で他の植生を抑えることができます。近年、広葉樹伐採後に放置され藪になり荒廃が懸念されるケースが増えています。

広葉樹伐採跡地にワラビのポット苗を定植し、ワラビで被覆することで荒廃を防ぎ、ワラビ園として維持管理するための技術を開発します。

成果の概要

広葉樹伐採から1年以内の箇所は、軽微な刈り払いを行えばすぐにポット苗を植えることができます。また、伐採から1年以上経過した箇所は、茎葉処理除草剤を散布し、枯死草木を刈り払う事でポット苗を植えることができます。

ポット苗を株間畝間1m間隔で植えた場合、2年目に完全にワラビで被覆され成園化できます。また、株間畝間2mで植えた場合、3年目に完全にワラビで被覆され成園化できます。

定植時期は入梅期が好ましく、完全被覆後は、7月上旬に全刈りを行うことで、ワラビ園として維持管理できます。

